

宝物展示室

大殿の地下一階は 2015 年に完成した展示用スペース、宝物展示室です。宝物展示室の目玉は、江戸幕府二代目将軍徳川秀忠（1579-1632）の元の墓所である台徳院殿霊廟の非常に精巧な 10 分の 1 スケール模型です。増上寺の他の多くの建物とともに、この霊廟も 1945 年の空襲で破壊されました。

徳院殿霊廟模型

このきわめて精緻な模型は江戸の職人たちの技術をミニチュアで再現したものです。この模型は、1910 年の日英博覧会で展示し、その後国王ジョージ 5 世に献上するため、東京市の依頼で制作されました。最近になって英国王室のコレクションから再発見され、増上寺に貸し出されて戻ってきました。慎重な復元・再組み立て作業の後、2015 年に展示公開されました。

狩野一信作『五百羅漢図』

江戸時代の有名な絵師、狩野一信（1816-1863）の掛け軸は入れ替えで展示されています。『五百羅漢図』は、釈迦如来の悟りを開いた弟子たちの日々の風景を 100 点の緻密な絵画にしたもので、ささやかな日常から鮮明な地獄と破壊の情景に至るまで、多岐にわたる場面が描かれています。狩野一信は、増上寺の子院である源興院の住職の依頼を受け、10 年の歳月をかけてこれらの掛け軸を制作しましたが、完成まで後わずかというところで亡くなりました。最後の 4 幅の完成を差配した狩野の妻は、三門のすぐ内側にあるお堂でこれらの作品を展示するよう取り計らいました。このお堂は 1945 年の空襲で焼失しましたが、掛け軸は無事でした。